



はしか (麻疹) に注意

2014.5.12

はしか (麻疹) が流行

国立感染症研究所のまとめによると、今年はじめから4月13日までのはしか (麻疹) の患者数が全国で274人となり、すでに去年1年間の患者数232人を超えていることが分かりました。流行は3~4年前から増加傾向にあるということです。

麻疹は麻疹ウイルスによる感染症で、4~5月が感染のピークとなります。通常は1~9歳くらいまでの子供がかかる病気と言われていましたが、最近は成人の感染者が増えています。日本では麻疹や風疹を予防するためにMRワクチンという混合ワクチンの接種が行われており、2回の接種で感染を予防し、発病を防げるとされてきました。ところが、麻疹ウイルスは遺伝子の違いによって8群23遺伝子に分類され、遺伝子型が異なるとワクチン接種の効果が期待できないことが分かってきました。

はしか (麻疹) とは

麻疹は麻疹ウイルス (体長0.2~0.3 μm) が原因となる病気です。ウイルスは他の生物や細胞に寄生して生きており、自分だけでは増殖できないのでヒトに感染するのです。ウイルスなどの病原体が体内に侵入してある部位に定着し、一定量以上に増殖した状態を感染の成立といい、発熱などの症状を示す場合を発病、その病気を感染症といいます。発病するかどうかは、免疫力や抵抗力の強さと病原体の毒力との力関係によって決まります。同じ病原体が侵入しても抵抗力があれば何の症状も出ませんが、抵抗力が低下しているヒトでは重症化することもあります。また、感染していても症状が出ない場合があります。これを不顕性感染といいます。

麻疹ウイルスの場合、接触感染・飛沫感染・空気感染・経口感染などが考えられます。2004年には全世界で約50万人が感染し、地域は主に東南アジア・中近東・アフリカでした。妊婦が感染した場合には、母親から胎児および新生児へ胎盤・産道・母乳に感染する経路があり、これを垂直感染と呼びます。ですから妊娠中には特に注意が必要です。

予防には、手洗い・うがい・マスクの着用・着用衣服の消毒などがあります。衛生管理が行き届いた日本の医療体制下では、麻疹は発症しづらくなっているはずですが、しかし、行き過ぎた清潔志向や超一流の衛生環境 (抗生物質や抗菌剤の使用過多) がかえって体力や免疫力を低下させており、病原体に対する抵抗力は著しく低下しています。近年は、海外からの渡航者や日本人の海外旅行者・海外からの帰国者が関連する感染症が増えています。

症状と予防

麻疹ウイルスは感染しても発病までは7~14日くらいの潜伏期間があります。その後38℃前後の発熱 (39℃以上では重症化) ・咳・鼻水・目やに・下痢・結膜炎・口腔内の痛みなどが出ます。そして一旦下がった熱が再び上昇すると、耳部から発疹が始まり、その後全身に広がります。重症化したウイルス脳炎では、運動障害・知覚障害・肺炎などに進行します。今のところ有効な治療薬がないので、ワクチン接種での予防が推奨されています。厚生労働省は今年の流行を受け、特定感染症予防指針を策定し、2015年度までに排除することを目標に掲げています。

ヒトには、病原体が侵入してもそれを防御する免疫機能が存在します。抵抗力・免疫力には個人差がありますが、強い抵抗力・回復力を維持するためには、規則正しい生活習慣・バランスのとれた食生活・水をたくさん飲む (ウイルスは乾燥に強く湿気に弱い) ・前向き思考・笑える環境下で生活することでしょう。感染した場合には速やかに医師の診断、治療を受けましょう。

大人も要注意です!

